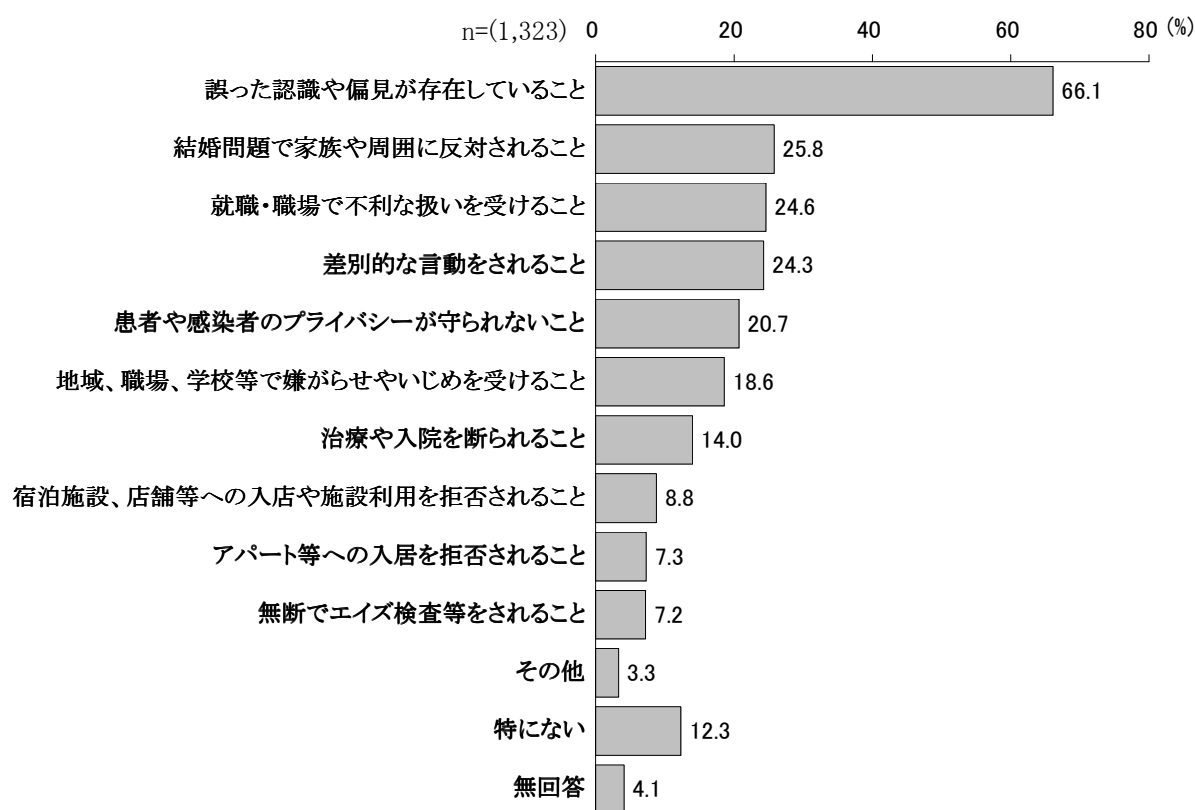


8. エイズ患者・HIV感染者やその家族の人権について

(1) エイズ患者・HIV感染者やその家族の人権問題

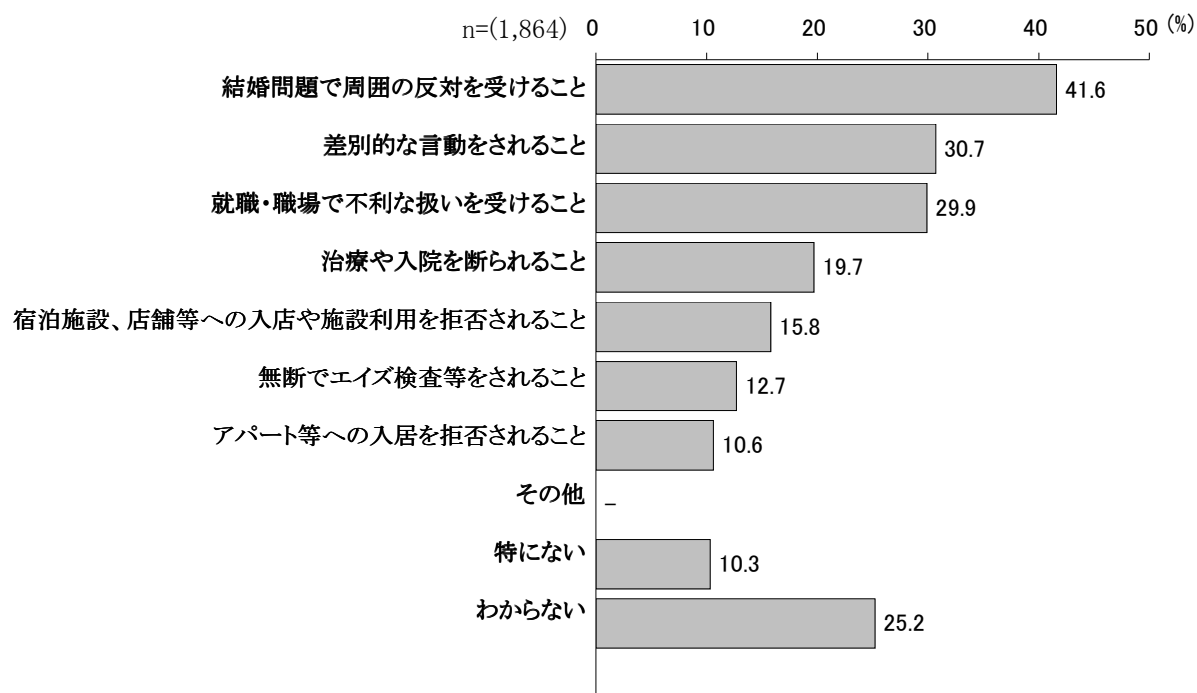
Q22 あなたは、エイズ患者・HIV感染者やその家族に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(該当するものすべてに「○」)

エイズ患者・HIV感染者やその家族の人権問題について尋ねたところ、「誤った認識や偏見が存在していること」が66.1%で最も高く、次いで「結婚問題で家族や周囲に反対されること」が25.8%、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が24.6%、「差別的な言動をされること」が24.3%などとなっている。



参考 内閣府 HIV感染者等に関する人権問題（複数回答）

内閣府調査におけるHIV感染者等に関する人権問題では、「結婚問題で周囲の反対を受けること」が41.6%で最も高く、「差別的な言動をされること」が30.7%、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が29.9%などとなっている。



第2章 調査結果の詳細

【性別・年代別】

性別では、すべての項目で女性のほうが男性より高くなっており、特に「誤った認識や偏見が存在していること」、「治療や入院を断られること」は、5ポイント以上の差となっている。

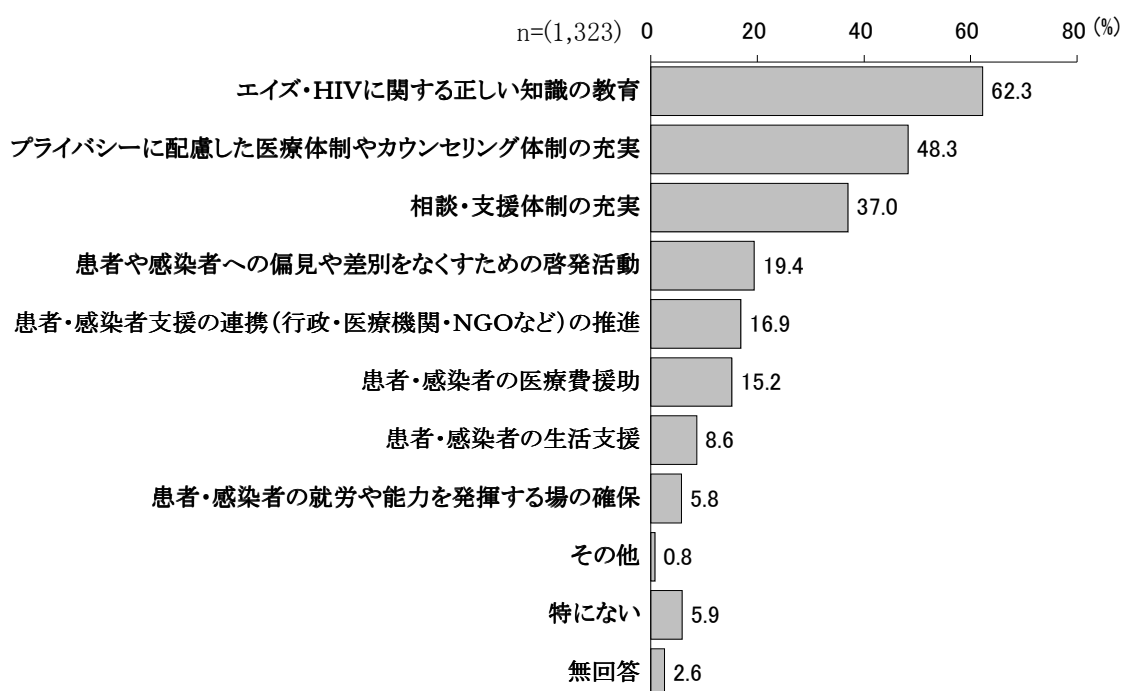
年代別では、「結婚問題で家族や周囲に反対されること」は、20～29歳（35.2%）で他の年代に比べて高くなっている。

	調査数	誤った認識や偏見が存在していること	結婚問題で家族や周囲に反対されること	就職・職場で不利な扱いを受けること	差別的な言動をされること	患者や感染者のプライバシーが守られないこと	地域、職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること	治療や入院を断られること	宿泊施設、店舗等への入店や施設利用を拒否されること	アパート等への入居を拒否されること	無断でエイズ検査等をされること	その他	特になし	無回答
全体	1,323	66.1	25.8	24.6	24.3	20.7	18.6	14.0	8.8	7.3	7.2	3.3	12.3	4.1
性別														
男性	586	63.3	22.7	24.6	22.5	20.8	17.2	11.1	8.7	6.7	6.3	2.7	14.2	3.6
女性	722	68.6	28.5	24.8	26.0	20.9	19.9	16.6	9.0	8.0	7.9	3.7	10.8	4.2
年齢別														
19歳以下	16	68.8	50.0	25.0	37.5	31.3	25.0	18.8	6.3	-	12.5	-	12.5	-
20～29歳	71	62.0	35.2	21.1	29.6	25.4	21.1	22.5	8.5	5.6	7.0	-	11.3	1.4
30～39歳	165	67.9	26.7	21.8	26.1	13.9	21.8	12.1	7.9	2.4	4.2	1.8	13.3	0.6
40～49歳	235	67.7	23.4	24.3	22.6	20.0	19.6	12.8	7.2	6.0	6.8	3.0	11.9	2.1
50～59歳	231	74.0	22.9	26.4	25.5	24.7	17.7	15.2	7.8	6.5	6.5	3.9	9.1	1.7
60～69歳	284	65.1	27.1	24.3	25.0	19.0	19.4	16.5	12.3	11.3	8.1	4.9	12.0	3.9
70～79歳	217	62.7	24.9	27.2	21.2	22.6	17.5	10.6	9.7	8.3	6.5	4.1	11.1	7.8
80歳以上	94	55.3	25.5	23.4	23.4	22.3	11.7	11.7	6.4	10.6	12.8	1.1	23.4	12.8

(2) エイズ患者・HIV感染者やその家族の人権擁護

Q23 あなたは、エイズ患者・HIV感染者やその家族の人権を守るために、特に、どのようなことが必要だと思いますか。(該当するもの3つ以内に「○」)

エイズ患者・HIV感染者やその家族の人権擁護のために必要なことは、「エイズ・HIVに関する正しい知識の教育」が62.3%で最も高く、次いで「プライバシーに配慮した医療体制やカウンセリング体制の充実」が48.3%、「相談・支援体制の充実」が37.0%などとなっている。



第2章 調査結果の詳細

【性別・年代別】

性別では、「エイズ・HIVに関する正しい知識の教育」、「プライバシーに配慮した医療体制やカウンセリング体制の充実」は、女性のほうが男性より7ポイント以上高くなっている。

年代別では、「エイズ・HIVに関する正しい知識の教育」は、年代が下がるにつれて高くなる傾向となっている。一方、「相談・支援体制の充実」は、年代が上がるにつれて高くなる傾向となっている。

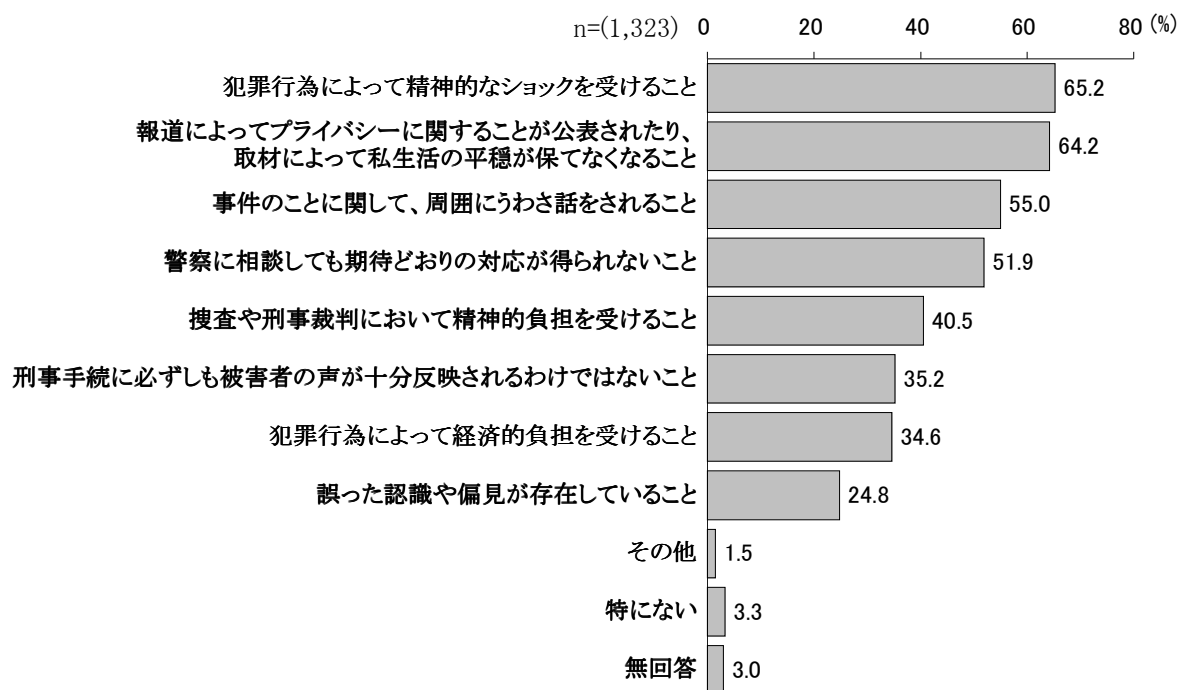
	調査数	エイズ・HIVに関する正しい知識の教育	プライバシーに配慮した医療体制やカウンセリング	相談・支援体制の充実	患者や感染者への偏見や差別をなくすための啓発活動	患者・感染者支援の連携（行政・医療機関・NGOなど）の推進	患者・感染者の医療費援助	患者・感染者の生活支援	患者・感染者の就労や能力を發揮する場の確保	その他	特にない	無回答
全体	1,323	62.3	48.3	37.0	19.4	16.9	15.2	8.6	5.8	0.8	5.9	2.6
性別												
男性	586	58.2	43.5	38.6	20.8	15.7	12.3	8.9	5.6	1.2	8.7	2.7
女性	722	65.9	52.1	35.7	18.6	17.9	17.7	8.6	5.8	0.6	3.5	2.4
年齢別												
19歳以下	16	68.8	37.5	31.3	6.3	18.8	31.3	25.0	12.5	-	12.5	-
20～29歳	71	71.8	40.8	26.8	18.3	16.9	23.9	14.1	7.0	-	4.2	1.4
30～39歳	165	68.5	44.8	25.5	22.4	14.5	18.2	12.7	6.7	0.6	4.8	1.2
40～49歳	235	68.9	51.9	31.5	17.9	15.3	20.0	8.9	5.5	-	4.3	1.3
50～59歳	231	64.9	51.9	36.4	21.2	17.7	15.6	8.2	4.3	1.3	4.3	1.7
60～69歳	284	59.2	50.4	43.3	21.1	18.7	11.6	5.3	4.9	1.4	6.0	2.1
70～79歳	217	58.5	47.9	43.8	18.4	16.1	11.5	6.0	6.5	0.9	6.5	3.7
80歳以上	94	40.4	39.4	46.8	16.0	19.1	7.4	11.7	6.4	1.1	12.8	9.6

9. 犯罪被害者等の人権について

(1) 犯罪被害者等の人権問題

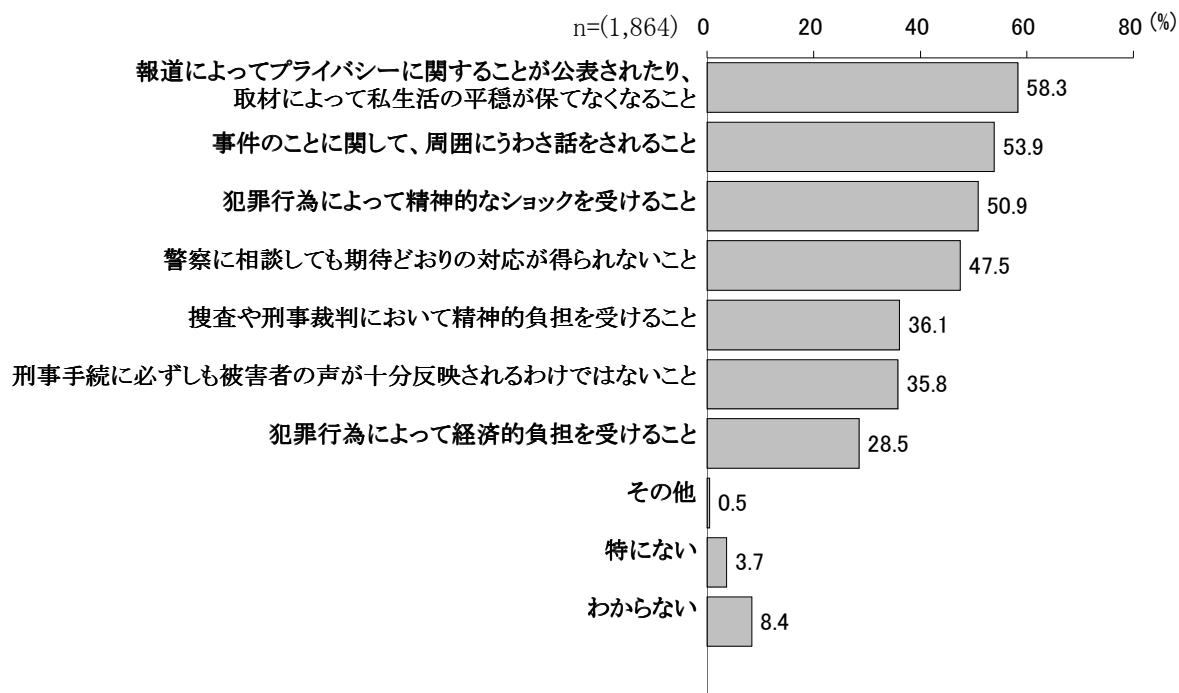
Q24 あなたは、犯罪被害者やその家族に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(該当するものすべてに「○」)

犯罪被害者等の人権問題について尋ねたところ、「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」が65.2%で最も高く、次いで「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」が64.2%、「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」が55.0%などとなっている。



参考 内閣府 犯罪被害者等に関する人権問題（複数回答）

内閣府調査における犯罪被害者等に関する人権問題では、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」が58.3%で最も高く、次いで「事件のことに關して、周囲にうわさ話をされること」が53.9%、「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」が50.9%などとなっている。



【性別・年代別】

性別では、「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」、「報道によってプライバシーに關することが公表されたり、取材によって私生活の平穩が保てなくなること」、「事件のことに關して、周囲にうわさ話をされること」、「捜査や刑事裁判において精神的負担を受けること」は、女性のほうが男性より10ポイント以上高くなっている。

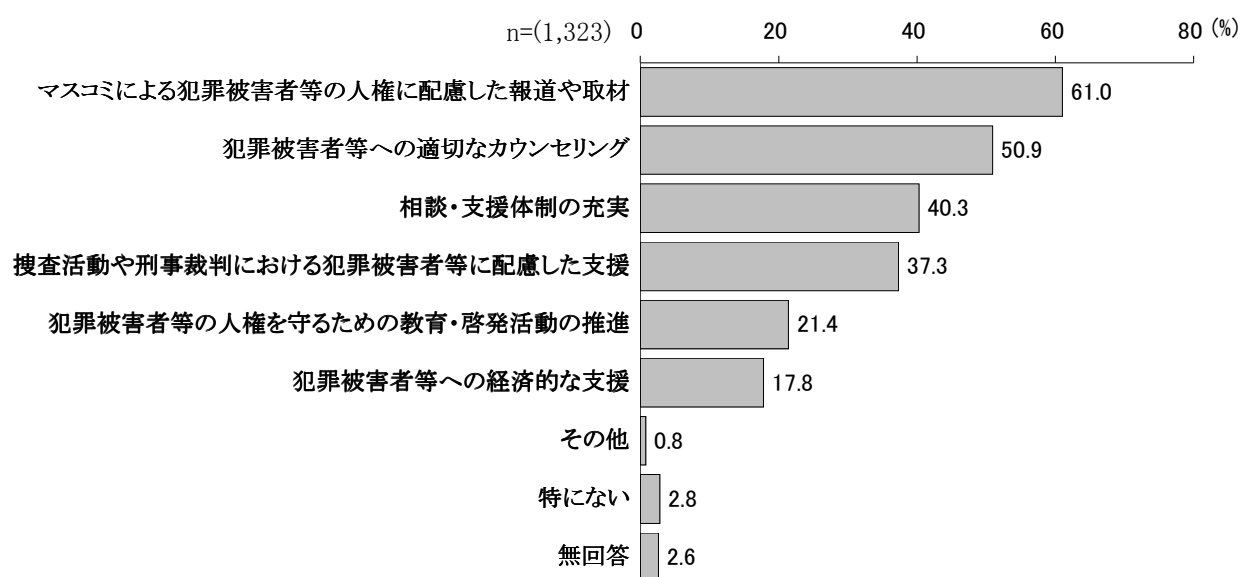
年代別では、「事件のことに關して、周囲にうわさ話をされること」は、30～39歳（69.1%）で最も高くなっているが、70歳以上では3割台と他の年代に比べて低くなっている。

	調査数	犯罪行為によって精神的なショックを受けること	報道によってプライバシーに關する平穩が保たれなくなること	取材によって私生活の平穩が保たれなくなること	事件のことに關して、周囲にうわさ話をされること	警察に相談しても期待どおりの対応が得られないこと	捜査や刑事裁判において精神的負担を受けること	刑事手続に必ずしも被害者の声が十分反映されるわけではないこと	犯罪行為によって経済的負担を受けること	誤った認識や偏見が存在していること	その他	特にない	無回答
全体	1,323	65.2	64.2	55.0	51.9	40.5	35.2	34.6	24.8	1.5	3.3	3.0	
性別													
男性	586	59.4	58.2	48.5	48.0	31.7	32.9	35.3	22.4	2.0	3.6	2.7	
女性	722	69.9	69.4	60.4	55.4	47.9	37.4	34.5	26.6	1.1	2.8	3.0	
年齢別													
19歳以下	16	56.3	43.8	56.3	56.3	25.0	25.0	50.0	25.0	-	-	-	
20～29歳	71	63.4	70.4	64.8	59.2	38.0	28.2	36.6	21.1	1.4	4.2	1.4	
30～39歳	165	73.9	69.7	69.1	62.4	49.1	41.2	30.3	10.3	1.2	1.8	-	
40～49歳	235	71.5	66.4	62.6	54.5	48.5	37.4	41.7	24.7	0.9	1.3	0.9	
50～59歳	231	76.6	72.7	62.8	60.6	52.4	44.2	39.4	29.9	1.7	1.3	0.9	
60～69歳	284	60.6	63.4	51.1	46.8	41.5	35.9	34.9	27.5	1.1	1.4	5.3	
70～79歳	217	57.1	56.2	39.2	45.2	23.0	25.3	28.1	29.5	3.7	5.5	3.7	
80歳以上	94	42.6	50.0	33.0	30.9	19.1	25.5	24.5	21.3	-	14.9	10.6	

(2) 犯罪被害者等の人権擁護

Q25 あなたは、犯罪被害者等の人権を守るためには、特に、どのようなことが必要だと思いますか。(該当するもの3つ以内に「○」)

犯罪被害者等の人権擁護のために必要なことは、「マスコミによる犯罪被害者等の人権に配慮した報道や取材」が61.0%で最も高く、次いで「犯罪被害者等への適切なカウンセリング」が50.9%、「相談・支援体制の充実」が40.3%などとなっている。



【性別・年代別】

性別では、「犯罪被害者等への適切なカウンセリング」は、女性（55.1%）のほうが男性（46.1%）より9.0ポイント高くなっている。

年代別では、「相談・支援体制の充実」は、70～79歳（57.1%）で最も高くなっている。また、「マスコミによる犯罪被害者等の人権に配慮した報道や取材」は、年代が下がるにつれて高くなる傾向となっている。

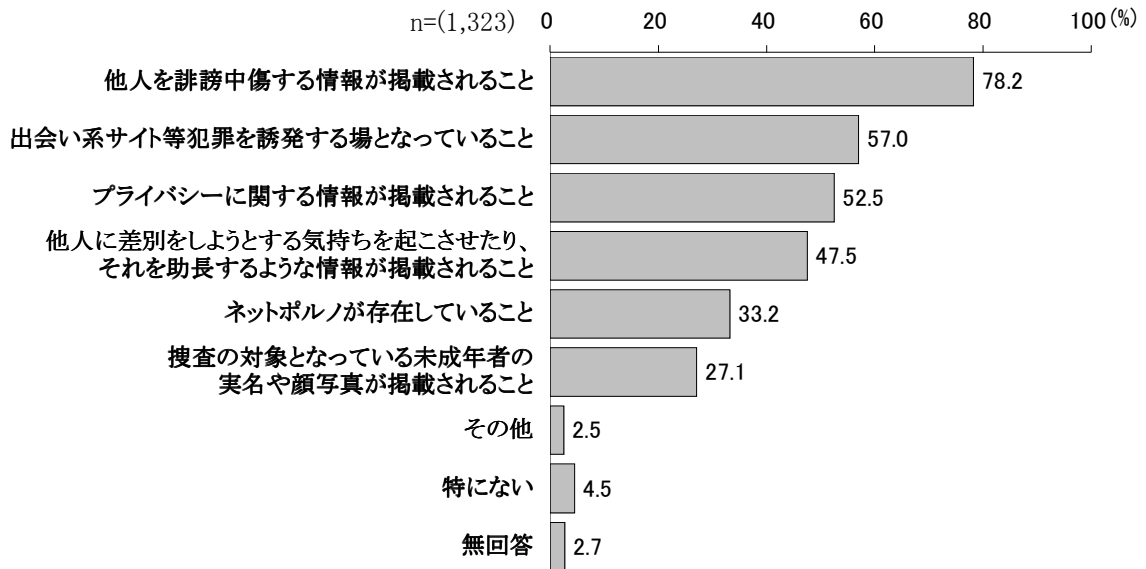
	調査数	マスコミによる報道や取材	犯罪被害者等への適切なカウンセリング	相談・支援体制の充実	捜査活動や刑事裁判における犯罪被害者等に配慮した支援	犯罪被害者等の人権を守るための教育・啓発活動の推進	犯罪被害者等への経済的な支援	その他	特になし	無回答
全体	1,323	61.0	50.9	40.3	37.3	21.4	17.8	0.8	2.8	2.6
性別										
男性	586	58.7	46.1	41.8	34.6	21.8	20.1	1.0	3.8	2.4
女性	722	63.3	55.1	38.9	39.6	20.9	16.1	0.7	1.9	2.6
年齢別										
19歳以下	16	62.5	56.3	37.5	18.8	18.8	25.0	-	-	-
20～29歳	71	70.4	53.5	38.0	28.2	23.9	9.9	-	4.2	1.4
30～39歳	165	69.1	57.0	25.5	40.6	19.4	21.8	0.6	1.8	0.6
40～49歳	235	64.7	55.7	33.2	44.3	26.0	21.3	0.9	2.1	0.4
50～59歳	231	67.1	53.7	36.8	44.2	16.9	20.3	0.4	2.2	0.9
60～69歳	284	59.5	50.7	42.6	39.1	21.8	17.6	1.4	2.5	2.1
70～79歳	217	50.2	45.2	57.1	28.6	19.4	12.9	0.9	3.2	5.5
80歳以上	94	46.8	34.0	47.9	22.3	27.7	12.8	1.1	7.4	10.6

10. インターネット環境での人権について

(1) インターネット環境での人権問題

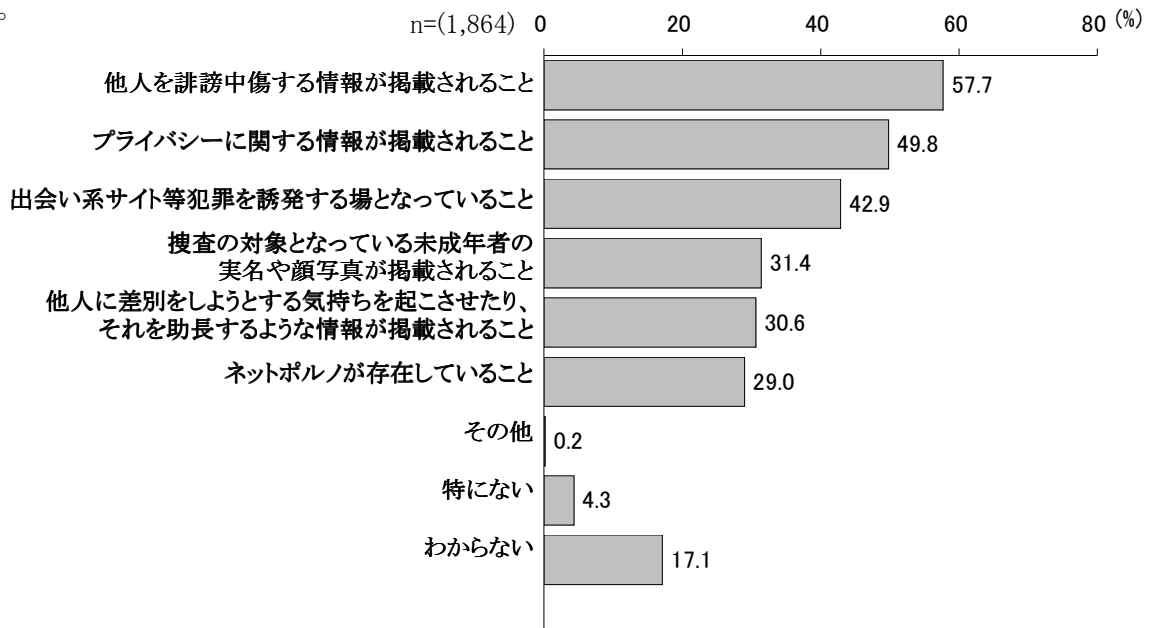
Q26 あなたは、インターネットによる人権侵害に関し、現在、どのような問題が起きていると思いますか。(該当するものすべてに「○」)

インターネット環境での人権問題について尋ねたところ、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が78.2%で最も高く、次いで「出会い系サイト等犯罪を誘発する場となっていること」が57.0%、「プライバシーに関する情報が掲載されること」が52.5%などとなっている。



参考 内閣府 インターネットによる人権侵害に関する人権問題（複数回答）

内閣府調査におけるインターネットによる人権侵害に関する人権問題では、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が57.7%で最も高く、次いで「プライバシーに関する情報が掲載されること」が49.8%、「出会い系サイト等犯罪を誘発する場となっていること」が42.9%などとなっている。



【性別・年代別】

性別では、すべての項目で女性のほうが男性より高くなっており、特に「出会い系サイト等犯罪を誘発する場となっていること」、「ネットポルノが存在していること」、「捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真が掲載されること」は、約10ポイント差となっている。

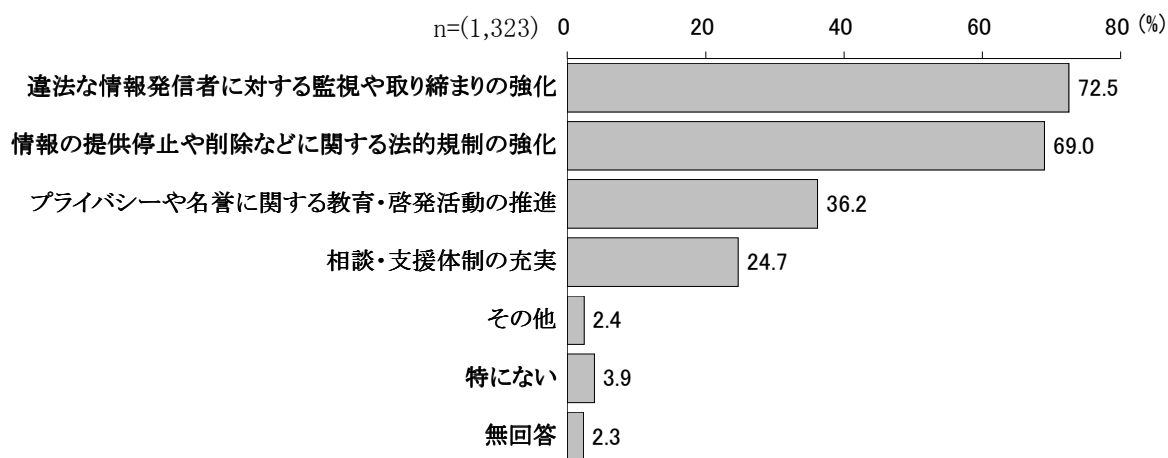
年代別では、「他人に差別をしようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような情報が掲載されること」は、20歳～59歳で5割以上と高くなっているが、60歳以上では3割台となっている。

	調査数	他人を誹謗中傷する情報が掲載されること	出会い系サイト等犯罪を誘発する場となっていること	プライバシーに関する情報が掲載されること	他人に差別をしようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような情報が掲載されること	ネットポルノが存在していること	捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真が掲載されること	その他	特にない	無回答
全体	1,323	78.2	57.0	52.5	47.5	33.2	27.1	2.5	4.5	2.7
性別										
男性	586	75.4	52.0	50.0	45.6	27.6	21.0	3.1	5.3	2.4
女性	722	81.2	61.4	54.8	49.3	37.5	32.3	1.9	3.9	2.6
年齢別										
19歳以下	16	81.3	50.0	37.5	37.5	31.3	25.0	-	-	-
20～29歳	71	81.7	38.0	59.2	56.3	25.4	14.1	5.6	2.8	-
30～39歳	165	87.9	44.8	49.7	52.1	29.1	27.3	2.4	2.4	-
40～49歳	235	90.2	54.9	57.0	59.6	34.5	31.1	0.9	0.9	0.4
50～59歳	231	85.7	58.9	58.0	61.9	33.3	34.2	1.7	3.0	1.3
60～69歳	284	76.1	66.5	55.6	38.4	35.6	26.4	1.8	6.3	2.8
70～79歳	217	65.4	62.2	45.2	32.7	36.4	24.9	4.1	7.4	5.5
80歳以上	94	50.0	55.3	38.3	30.9	27.7	18.1	4.3	11.7	9.6

(2) インターネット環境での人権擁護

Q27 あなたは、インターネット上の人権侵害を防ぐためには、特に、どのようなことが必要だと思いますか。(該当するもの3つ以内に「○」)

インターネット環境での人権擁護のために必要なことは、「違法な情報発信者に対する監視や取り締まりの強化」が72.5%で最も高く、次いで「情報の提供停止や削除などに関する法的規制の強化」が69.0%、「プライバシーや名誉に関する教育・啓発活動の推進」が36.2%などとなっている。



【性別・年代別】

性別では、「情報の提供停止や削除などに関する法的規制の強化」は、女性（73.4%）のほうが男性（64.2%）より9.2ポイント高くなっている。

年代別では、「違法な情報発信者に対する監視や取り締まりの強化」は、50～59歳（80.1%）で最も高くなっている。「相談・支援体制の充実」は、70歳以上で3割台後半と他の年代に比べて高くなっている。

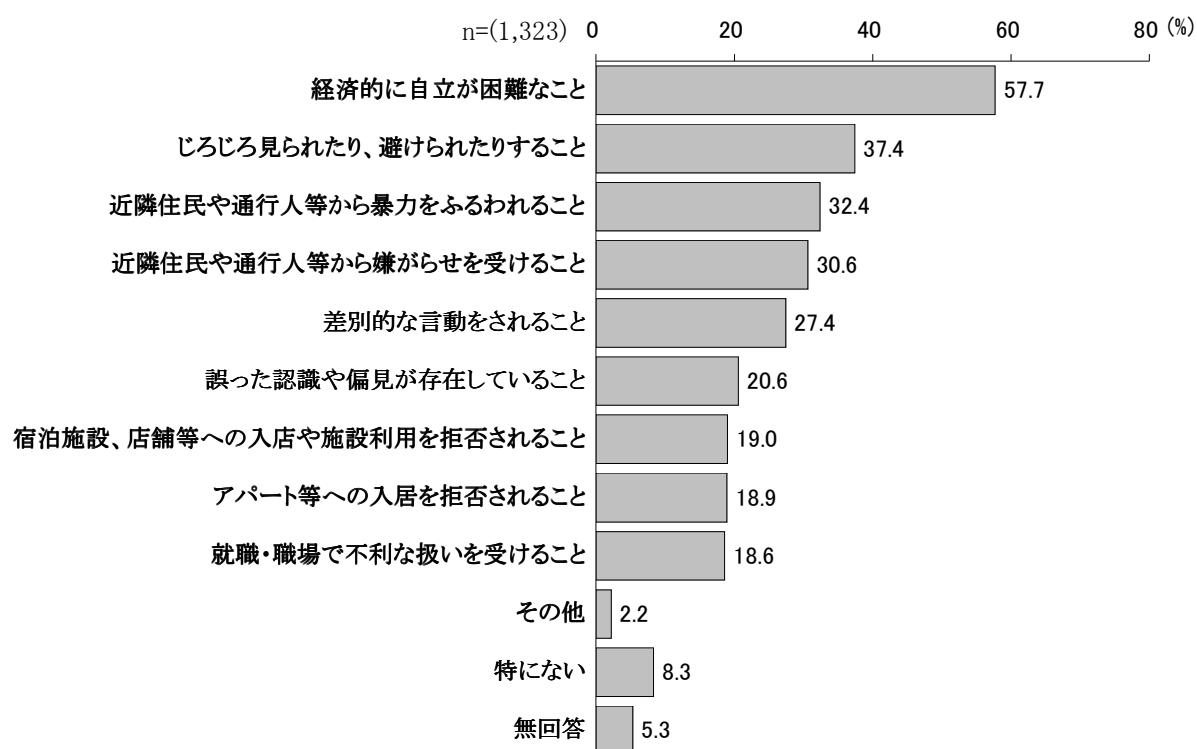
	調査数	違法な情報発信者に対する監視や取り締まりの強化	情報の提供停止や削除などに関する法的規制の強化	プライバシーや名誉に関する教育・啓発活動の推進	相談・支援体制の充実	その他	特にない	無回答
全体	1,323	72.5	69.0	36.2	24.7	2.4	3.9	2.3
性別								
男性	586	70.3	64.2	33.1	27.8	2.6	4.6	1.7
女性	722	74.4	73.4	38.9	22.2	2.2	3.3	2.5
年齢別								
19歳以下	16	56.3	56.3	50.0	31.3	-	-	-
20～29歳	71	66.2	64.8	45.1	22.5	4.2	1.4	1.4
30～39歳	165	75.8	65.5	41.8	10.9	2.4	4.2	0.6
40～49歳	235	75.3	77.0	36.2	19.1	3.4	0.9	0.9
50～59歳	231	80.1	77.1	42.4	22.1	1.7	1.3	1.3
60～69歳	284	74.6	74.6	32.0	25.7	1.1	4.9	1.4
70～79歳	217	67.7	62.7	30.9	37.3	3.2	4.6	4.6
80歳以上	94	53.2	41.5	28.7	38.3	2.1	14.9	7.4

11. ホームレスの人権について

(1) ホームレスの人権問題

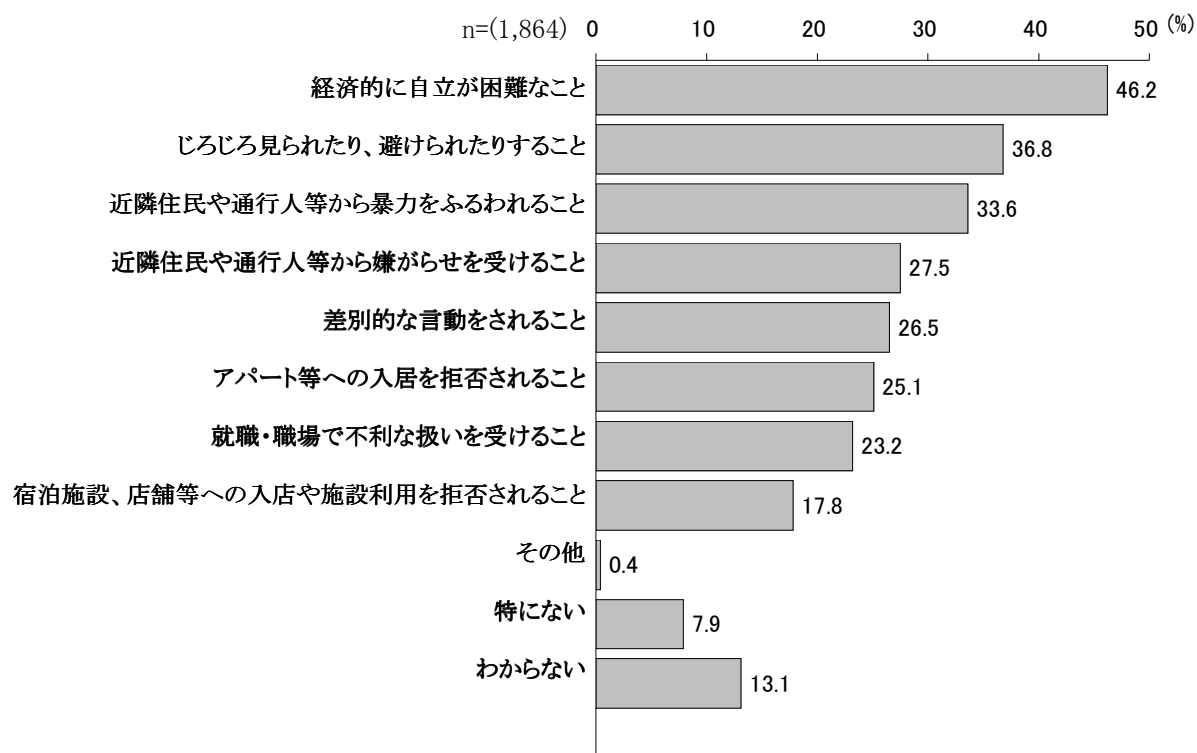
Q28 あなたは、ホームレスに関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。
(該当するものすべてに「○」)

ホームレスの人権問題について尋ねたところ、「経済的に自立が困難なこと」が57.7%で最も高く、次いで「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が37.4%、「近隣住民や通行人等から暴力をふるわれること」が32.4%などとなっている。



参考 内閣府 ホームレスに関する人権問題（複数回答）

内閣府調査におけるホームレスに関する人権問題では、「経済的に自立が困難なこと」が46.2%で最も高く、次いで「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が36.8%、「近隣住民や通行人等から暴力をふるわれること」が33.6%などとなっている。



第2章 調査結果の詳細

【性別・年代別】

性別では、「経済的に自立が困難なこと」は、女性（62.0%）のほうが男性（52.6%）より9.4ポイント高くなっている。

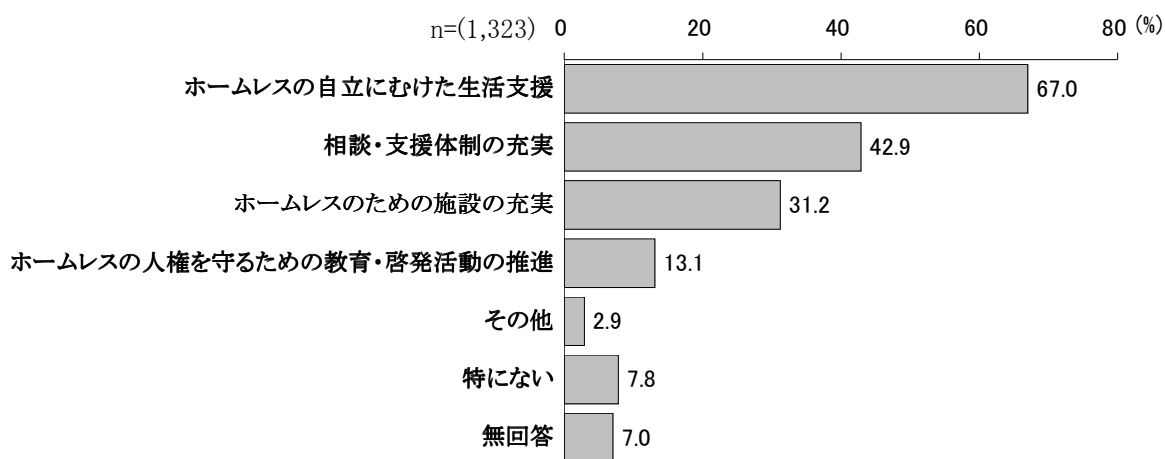
年代別では、「経済的に自立が困難なこと」は、50～59歳（66.2%）で最も高くなっている。

	調査数	経済的に自立が困難なこと	じろじろ見られたり、避けられたりすること	と近隣住民や通行人等から暴力をふるわれること	と近隣住民や通行人等から嫌がらせを受けること	差別的な言動をされること	誤った認識や偏見が存在していること	宿泊施設、店舗等への入店や施設利用を拒否されること	アパート等への入居を拒否されること	就職・職場で不利な扱いを受けること	その他	特にない	無回答
全体	1,323	57.7	37.4	32.4	30.6	27.4	20.6	19.0	18.9	18.6	2.2	8.3	5.3
性別													
男性	586	52.6	34.3	31.1	32.3	26.8	22.5	17.9	17.9	17.6	2.2	9.6	4.8
女性	722	62.0	40.0	33.7	29.4	28.1	19.1	19.7	19.8	19.3	2.1	7.3	5.4
年齢別													
19歳以下	16	56.3	68.8	37.5	43.8	56.3	6.3	12.5	12.5	25.0	-	6.3	-
20～29歳	71	49.3	40.8	32.4	29.6	33.8	19.7	11.3	5.6	21.1	1.4	9.9	1.4
30～39歳	165	60.0	39.4	35.8	29.7	27.9	8.5	16.4	15.2	13.9	1.2	10.3	0.6
40～49歳	235	59.1	37.0	38.3	28.5	26.4	14.9	15.7	18.7	17.4	0.9	10.6	1.7
50～59歳	231	66.2	38.1	34.6	31.6	26.4	18.6	17.3	22.9	19.0	2.6	5.6	4.8
60～69歳	284	58.1	41.9	27.5	28.2	28.9	27.1	22.9	20.1	20.4	2.8	6.3	6.7
70～79歳	217	53.0	31.3	30.9	35.0	24.9	28.6	24.0	22.1	18.0	3.2	7.4	7.8
80歳以上	94	46.8	25.5	24.5	29.8	23.4	25.5	18.1	16.0	19.1	2.1	12.8	17.0

(2) ホームレスの人権擁護

Q29 あなたは、ホームレスの人権を守るためには、特に、どのようなことが必要だと思いますか。(該当するもの3つ以内に「○」)

ホームレスの人権擁護のために必要なことは、「ホームレスの自立にむけた生活支援」が67.0%で最も高く、次いで「相談・支援体制の充実」が42.9%、「ホームレスのための施設の充実」が31.2%などとなっている。



第2章 調査結果の詳細

【性別・年代別】

性別では、「ホームレスの自立にむけた生活支援」は、女性（69.7%）のほうが男性（64.2%）より5.5ポイント高くなっている。

年代別では、「相談・支援体制の充実」は、70～79歳（56.2%）で最も高くなっている。また、「ホームレスの自立にむけた生活支援」は、年代が下がるにつれて高くなる傾向となっている。

	調査数	ホームレスの自立にむけた生活支援	相談・支援体制の充実	ホームレスのための施設の充実	ホームレスの人権を守るための教育・啓発活動の推進	その他	特にない	無回答
全体	1,323	67.0	42.9	31.2	13.1	2.9	7.8	7.0
性別								
男性	586	64.2	43.0	31.4	12.8	3.4	8.5	7.0
女性	722	69.7	42.8	31.0	13.3	2.4	7.2	6.5
年齢別								
19歳以下	16	81.3	37.5	31.3	18.8	-	6.3	6.3
20～29歳	71	77.5	32.4	32.4	14.1	2.8	8.5	2.8
30～39歳	165	70.3	28.5	26.7	10.9	3.6	12.1	2.4
40～49歳	235	73.2	37.4	24.7	11.9	3.0	10.6	2.1
50～59歳	231	71.4	42.0	30.3	13.9	3.0	6.9	6.1
60～69歳	284	66.2	48.9	34.5	14.8	1.8	5.6	7.0
70～79歳	217	59.0	56.2	37.3	11.1	3.2	5.5	10.6
80歳以上	94	48.9	42.6	31.9	16.0	3.2	7.4	21.3

12. 性的指向・性同一性障がいに関する人権について

(1) 性的指向・性同一性障がいに関する人権問題

Q30 あなたは、同性愛、両性愛といった性的指向<注③>や、性同一性障がい<注④>に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(該当するものすべてに「○」)

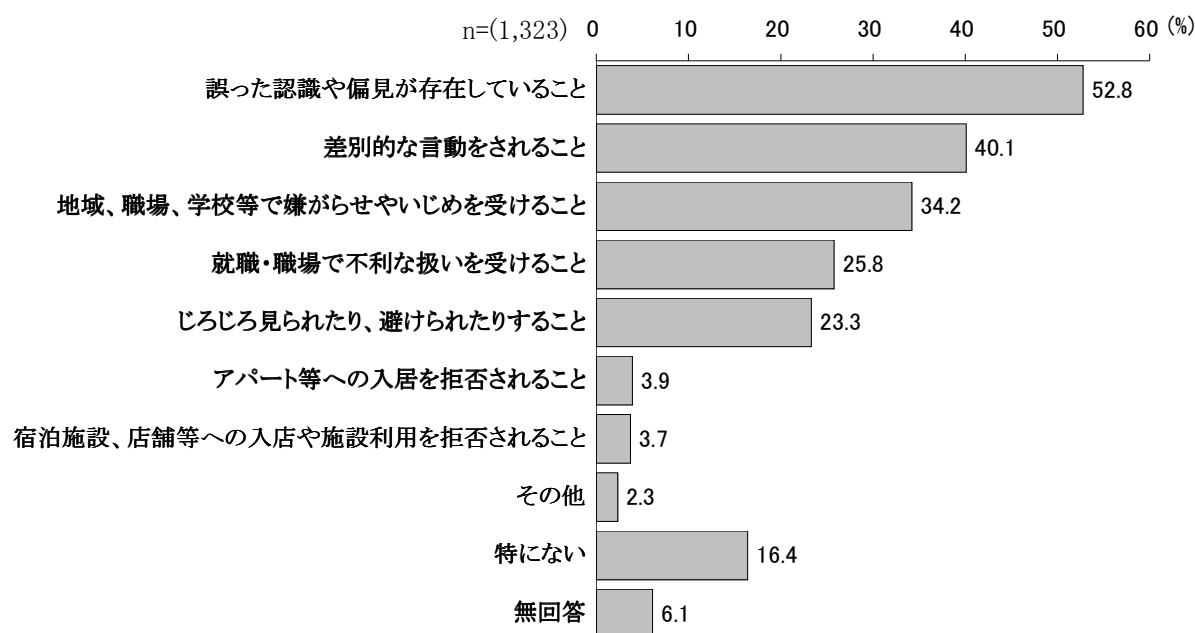
<注③>性的指向

性愛に関して自分の性的意識の向く方向のことを言います。性的指向は、異性に向く人、同性に向く人、両性に向く人、どちらにも向かない人がいます。

<注④>性同一性障がい

生物学的な性（生まれた時に持っていた体の性）と自己認識の性（生きていきたいと感じている性）が異なる状態のことをいいます。

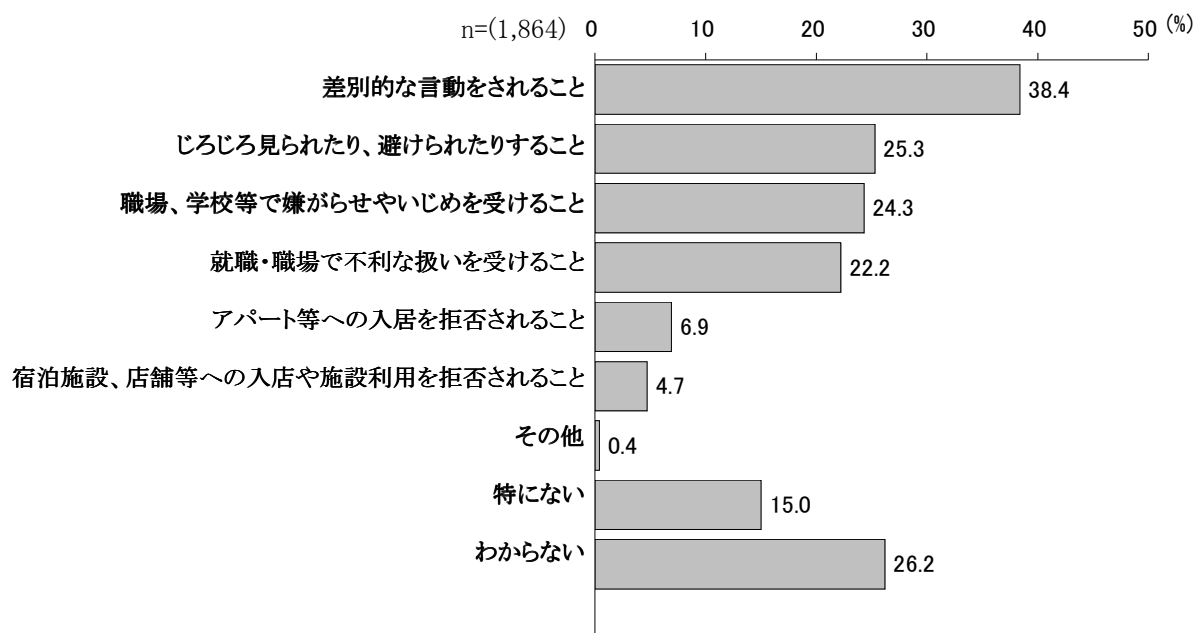
性的指向・性同一性障がいに関する人権問題について尋ねたところ、「誤った認識や偏見が存在していること」が52.8%で最も高く、次いで「差別的な言動をされること」が40.1%、「地域、職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が34.2%などとなっている。



第2章 調査結果の詳細

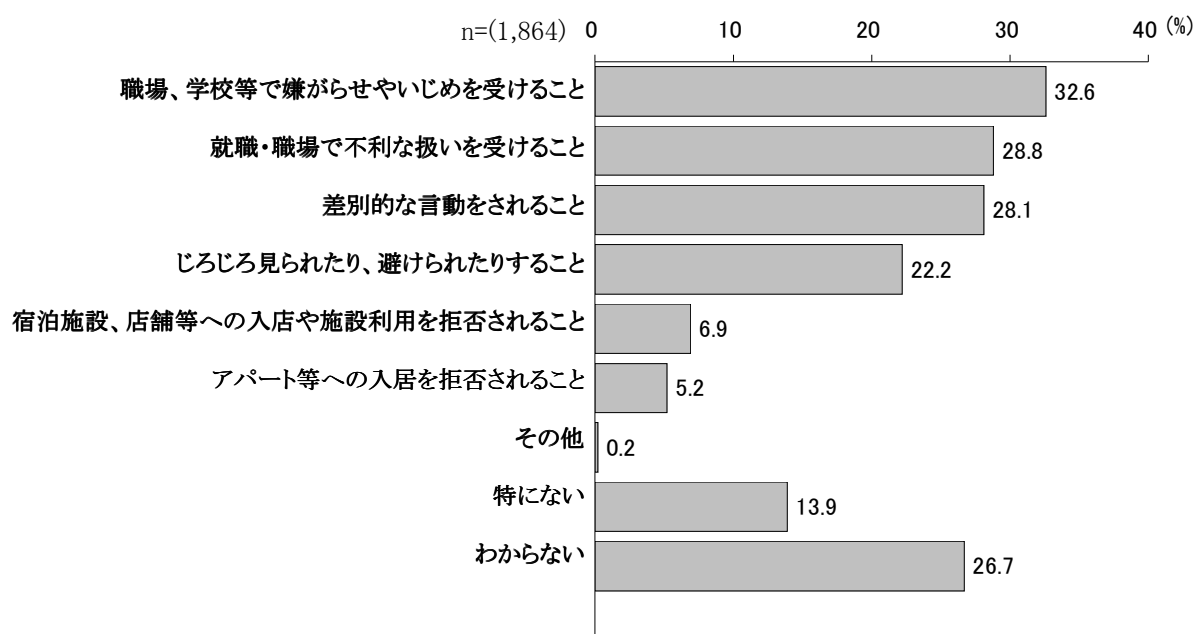
参考 内閣府 性的指向に関する人権問題（複数回答）

内閣府調査における性的指向に関する人権問題では、「差別的な言動をされること」が38.4%で最も高く、次いで「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が25.3%、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が24.3%などとなっている。



参考 内閣府 性同一性障がい者に関する人権問題（複数回答）

内閣府調査における性同一性障がい者に関する人権問題では、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が32.6%で最も高く、次いで「就職・職場で不利な扱いを受けること」が28.8%、「差別的な言動をされること」が28.1%などとなっている。



【性別・年代別】

性別では、すべての項目で女性のほうが男性より高くなっており、特に「就職・職場で不利な扱いを受けること」（女性30.2%、男性20.6%）で9.6ポイント差となっている。

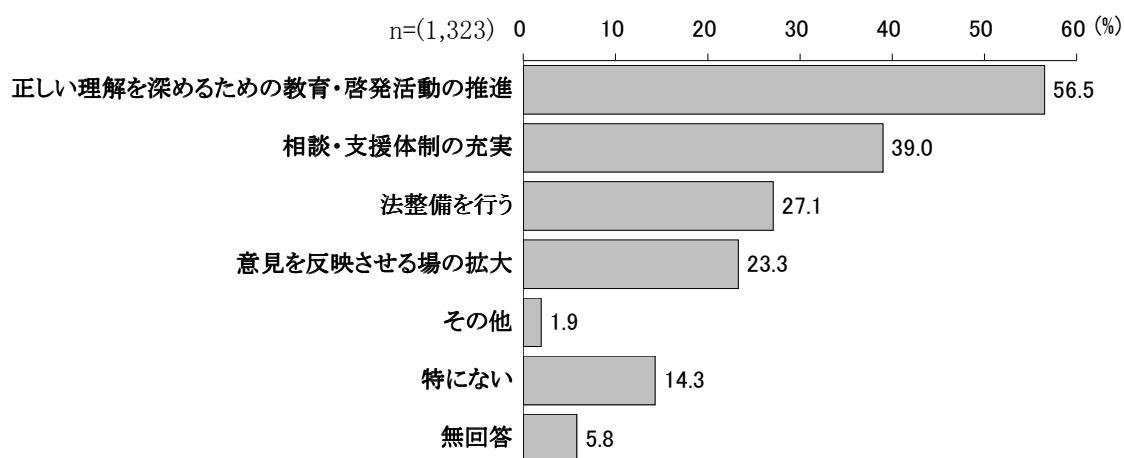
年代別では、「誤った認識や偏見が存在していること」は、20～29歳（67.6%）で最も高くなっている。また、「差別的な言動をされること」は、年代が下がるにつれて高くなる傾向となっている。一方、「特にない」は、年代が上がるにつれて高くなる傾向となっている。

	調査数	誤った認識や偏見が存在していること	差別的な言動をされること	地域、職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること	就職・職場で不利な扱いを受けること	じろじろ見られたり、避けられたりすること	アパート等への入居を拒否されること	宿泊施設、店舗等への入店や施設利用を拒否されること	その他	特にない	無回答
全体	1,323	52.8	40.1	34.2	25.8	23.3	3.9	3.7	2.3	16.4	6.1
性別											
男性	586	51.2	38.1	31.6	20.6	21.0	3.6	3.6	2.7	18.9	5.5
女性	722	54.2	42.1	36.6	30.2	25.3	4.3	3.9	1.9	14.1	6.4
年齢別											
19歳以下	16	62.5	50.0	56.3	12.5	56.3	-	6.3	-	-	-
20～29歳	71	67.6	54.9	43.7	22.5	26.8	4.2	2.8	1.4	5.6	1.4
30～39歳	165	47.3	50.3	39.4	26.1	25.5	1.2	1.8	1.8	14.5	0.6
40～49歳	235	54.9	42.1	41.7	27.2	25.1	3.0	5.1	1.3	13.6	3.0
50～59歳	231	61.0	44.2	39.4	31.2	20.8	4.8	3.5	1.7	13.4	3.5
60～69歳	284	51.4	39.4	25.7	23.9	25.0	4.2	2.5	1.8	18.3	7.4
70～79歳	217	48.8	29.0	25.3	26.3	19.4	5.5	5.1	5.1	21.7	9.2
80歳以上	94	39.4	23.4	29.8	18.1	19.1	5.3	5.3	3.2	25.5	21.3

(2) 性的指向・性同一性障がいに関する人権擁護

Q31 あなたは、性的指向や性同一性障がいに関することで、特に、どのような取り組みが必要だと思いますか。(該当するもの3つ以内に「○」)

性的指向・性同一性障がいに関する人権擁護のために必要なことは、「正しい理解を深めるための教育・啓発活動の推進」が56.5%、「相談・支援体制の充実」が39.0%、「法整備を行う」が27.1%などとなっている。



【性別・年代別】

性別では、「相談・支援体制の充実」は、女性（41.6%）のほうが男性（35.8%）より5.8ポイント高くなっている。一方、「特にない」は、男性（17.2%）のほうが女性（11.8%）より5.4ポイント高くなっている。

年代別では、「法整備を行う」は、20～29歳（52.1%）で5割を超えて最も高くなっている。「意見を反映させる場の拡大」でも20～29歳（35.2%）で3割台半ばと他の年代に比べて高くなっている。

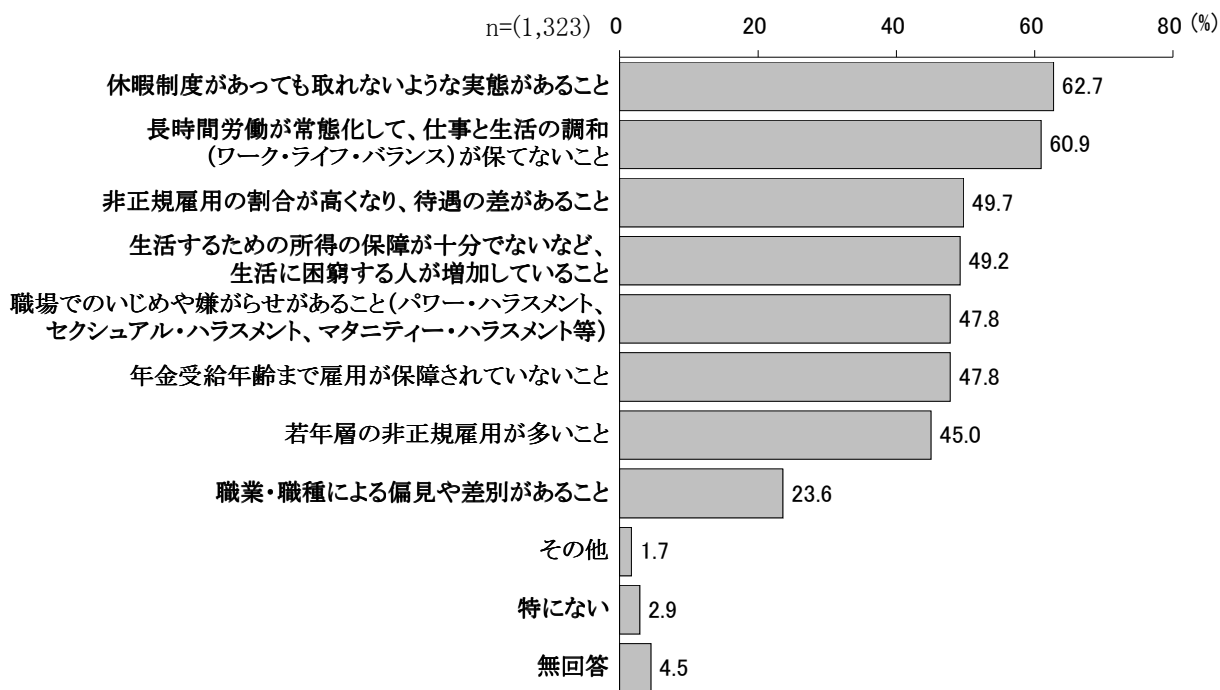
	調査数	推 進 し い 理 解 を 深 め る た め の 教 育 ・ 啓 発 活 動 の	相 談 ・ 支 援 体 制 の 充 実	法 整 備 を 行 う	意 見 を 反 映 さ せ る 場 の 拡 大	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体	1,323	56.5	39.0	27.1	23.3	1.9	14.3	5.8
性別								
男性	586	54.4	35.8	26.8	22.2	2.6	17.2	5.5
女性	722	58.2	41.6	27.7	24.2	1.4	11.8	5.8
年齢別								
19歳以下	16	68.8	43.8	50.0	43.8	-	-	-
20～29歳	71	63.4	38.0	52.1	35.2	4.2	8.5	1.4
30～39歳	165	60.0	30.9	28.5	25.5	0.6	12.1	1.8
40～49歳	235	57.9	36.6	28.9	25.1	1.3	12.8	2.6
50～59歳	231	61.9	45.5	30.7	22.9	1.7	10.4	3.9
60～69歳	284	55.6	34.5	23.9	20.1	1.1	18.0	6.7
70～79歳	217	51.6	46.1	20.3	22.6	3.7	16.6	8.3
80歳以上	94	40.4	41.5	17.0	14.9	3.2	21.3	19.1

13. 働く人の人権について

(1) 働く人の人権問題

Q32 あなたは、働く人に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(該当するものすべてに「○」)

働く人の人権問題について尋ねたところ、「休暇制度があっても取れないような実態があること」が62.7%で最も高く、次いで「長時間労働が常態化して、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が保てないこと」が60.9%、「非正規雇用の割合が高くなり、待遇の差があること」が49.7%、「生活するための所得の保障が十分でないなど、生活に困窮する人が増加していること」が49.2%などとなっている。



【性別・年代別・職業別】

性別では、「年金受給年齢まで雇用が保障されていないこと」は、女性（52.8%）のほうが男性（42.2%）より10.6ポイント高くなっている。

年代別では、「休暇制度があっても取れないような実態があること」、「長時間労働が常態化して、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が保てないこと」は、年代が下がるにつれて高くなる傾向となっている。

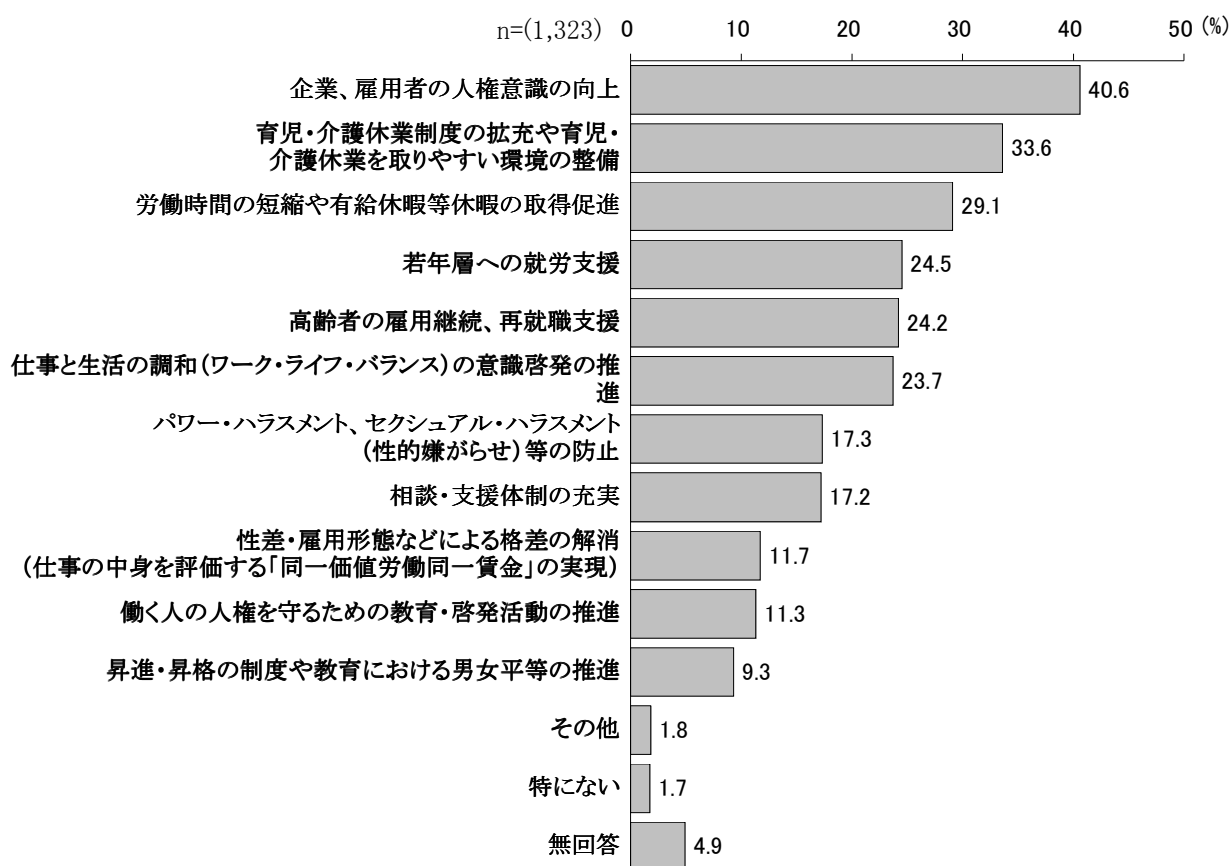
職業別では、「職場でのいじめや嫌がらせがあること（パワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）、マタニティー・ハラスメント（妊娠・出産を理由とした嫌がらせ等）」は、学生（67.7%）、自営業・個人業（62.2%）で6割台と他の職業に比べて高くなっている。

	調査数	休暇制度があっても取れないような実態があること	長時間労働が常態化して、仕事と生活の調和が保てないこと	非正規雇用の割合が高くなり、待遇の差があること	生活するに困窮する人が増加していること	メンタル・マタニティー・セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）	職場でのいじめや嫌がらせがあること	年金受給年齢まで雇用が保障されていないこと	若年層の非正規雇用が多いこと	職業・職種による偏見や差別があること	その他	特になし	無回答
全体	1,323	62.7	60.9	49.7	49.2	47.8	47.8	45.0	23.6	1.7	2.9	4.5	
性別													
男性	586	60.1	61.3	50.3	47.1	46.4	42.2	45.6	22.2	1.7	2.9	4.3	
女性	722	65.1	60.8	49.4	51.1	49.2	52.8	44.9	24.9	1.7	2.8	4.6	
年齢別													
19歳以下	16	75.0	75.0	50.0	43.8	68.8	37.5	43.8	37.5	-	-	-	
20～29歳	71	78.9	84.5	40.8	43.7	46.5	35.2	35.2	23.9	4.2	1.4	1.4	
30～39歳	165	71.5	72.1	35.8	47.9	49.1	52.1	38.2	23.6	3.0	-	-	
40～49歳	235	68.9	66.0	46.0	50.2	54.5	45.1	36.6	26.0	2.6	2.6	1.3	
50～59歳	231	68.4	63.6	55.0	57.1	57.1	58.4	51.1	22.9	1.3	0.4	3.5	
60～69歳	284	58.1	51.1	58.5	50.0	42.3	46.1	57.0	25.0	1.8	3.9	5.3	
70～79歳	217	51.2	52.5	53.0	46.1	43.3	47.9	45.2	19.8	-	5.5	6.5	
80歳以上	94	43.6	51.1	43.6	40.4	29.8	39.4	34.0	21.3	-	7.4	18.1	
職業													
会社員・公務員など	393	68.4	67.9	41.0	45.8	47.6	45.5	41.0	21.4	2.3	0.8	3.1	
パート・アルバイト・契約社員など	207	65.2	52.7	58.9	58.5	47.8	52.2	47.8	21.3	2.4	2.4	1.0	
自営業・個人業	90	61.1	64.4	54.4	57.8	62.2	52.2	43.3	33.3	4.4	4.4	4.4	
家事専業	268	62.7	64.6	48.9	49.3	50.0	54.9	46.6	24.6	0.4	2.6	6.0	
学生	31	77.4	77.4	51.6	48.4	67.7	38.7	48.4	35.5	3.2	-	3.2	
その他の職業	27	59.3	59.3	63.0	33.3	29.6	37.0	44.4	29.6	3.7	3.7	3.7	
仕事はしていない	290	52.8	52.1	53.8	46.9	41.0	42.4	47.9	22.8	0.3	6.2	6.9	

(2) 働く人の人権擁護

Q33 あなたは、働く人の人権を守るためには、特に、どのようなことが必要だと思いますか。(該当するもの3つ以内に「○」)

働く人の人権擁護のために必要なことは、「企業、雇用者の人権意識の向上」が40.6%で最も高く、次いで「育児・介護休業制度の拡充や育児・介護休業を取りやすい環境の整備」が33.6%、「労働時間の短縮や有給休暇等休暇の取得促進」が29.1%などとなっている。



【性別・年代別・職業別】

性別では、「育児・介護休業制度の拡充や育児・介護休業を取りやすい環境の整備」は、女性（38.8%）のほうが男性（27.1%）より11.7ポイント高くなっている。

年代別では、「育児・介護休業制度の拡充や育児・介護休業を取りやすい環境の整備」は、30～39歳（47.9%）で4割台後半と最も高くなっている。また、「労働時間の短縮や有給休暇等休暇の取得促進」、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の意識啓発の推進」は、年代が下がるにつれて高くなる傾向となっている。

職業別では、「パワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）等の防止」は、学生（32.3%）で最も高くなっている。

	調査数	企業、雇用者の人権意識の向上	育児・介護休業制度の拡充や育児・介護休業を取りやすい環境の整備	労働時間の短縮や有給休暇等休暇の取得促進	若年層への就労支援	高齢者の雇用継続、再就職支援	仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の意識啓発の推進	パワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラメント（性的嫌がらせ）等の防止	相談・支援体制の充実	性差・雇用形態などによる格差の解消（仕事の実現）	働く人の人権を守るための教育・啓発活動の推進	昇進・昇格の制度や教育における男女平等の推進	その他	特にない	無回答
全体	1,323	40.6	33.6	29.1	24.5	24.2	23.7	17.3	17.2	11.7	11.3	9.3	1.8	1.7	4.9
性別															
男性	586	41.3	27.1	30.4	24.1	22.5	23.5	18.4	17.7	10.9	13.5	9.0	2.4	1.7	4.9
女性	722	40.0	38.8	28.3	24.9	25.8	23.7	16.6	16.6	12.5	9.6	9.7	1.1	1.8	4.7
年齢別															
19歳以下	16	18.8	31.3	43.8	37.5	6.3	31.3	43.8	18.8	6.3	18.8	12.5	-	-	-
20～29歳	71	39.4	33.8	53.5	21.1	5.6	35.2	11.3	18.3	8.5	9.9	19.7	4.2	-	2.8
30～39歳	165	41.8	47.9	45.5	20.0	13.3	30.9	17.6	6.7	10.3	6.7	12.1	3.6	-	1.2
40～49歳	235	43.8	26.0	32.3	19.6	22.6	30.2	25.1	13.6	12.8	11.5	11.9	1.7	2.1	1.3
50～59歳	231	41.1	36.4	26.0	30.3	32.5	19.9	21.2	16.5	13.9	10.4	6.5	1.7	0.4	3.9
60～69歳	284	44.0	35.2	23.6	31.0	27.1	19.4	16.2	15.1	13.4	9.9	4.9	0.7	2.1	5.3
70～79歳	217	39.2	29.0	21.7	22.1	27.6	20.3	12.4	26.3	11.1	15.2	7.8	0.9	2.3	6.9
80歳以上	94	26.6	24.5	13.8	16.0	28.7	16.0	3.2	29.8	7.4	17.0	13.8	2.1	6.4	18.1
職業															
会社員・公務員など	393	43.0	29.8	38.7	23.2	19.1	28.8	20.9	11.2	9.2	10.4	13.5	2.3	0.5	3.6
パート・アルバイト・契約社員など	207	42.0	35.3	30.9	30.0	28.5	26.1	18.4	13.5	15.0	9.7	5.8	1.9	0.5	1.0
自営業・個人業	90	44.4	28.9	16.7	30.0	31.1	18.9	20.0	23.3	15.6	12.2	6.7	2.2	2.2	4.4
家事専業	268	42.5	39.2	23.9	25.4	28.0	20.9	14.9	20.5	11.6	11.6	8.6	1.1	1.9	4.9
学生	31	35.5	41.9	38.7	25.8	6.5	22.6	32.3	19.4	9.7	12.9	12.9	-	-	6.5
その他の職業	27	55.6	40.7	22.2	25.9	18.5	25.9	-	11.1	11.1	18.5	7.4	3.7	-	3.7
仕事はしていない	290	32.8	32.1	23.8	20.0	24.8	19.0	13.8	23.1	12.8	12.8	7.6	1.4	4.5	8.6

14. アイヌの人々の人権について

(1) アイヌの人々の人権問題

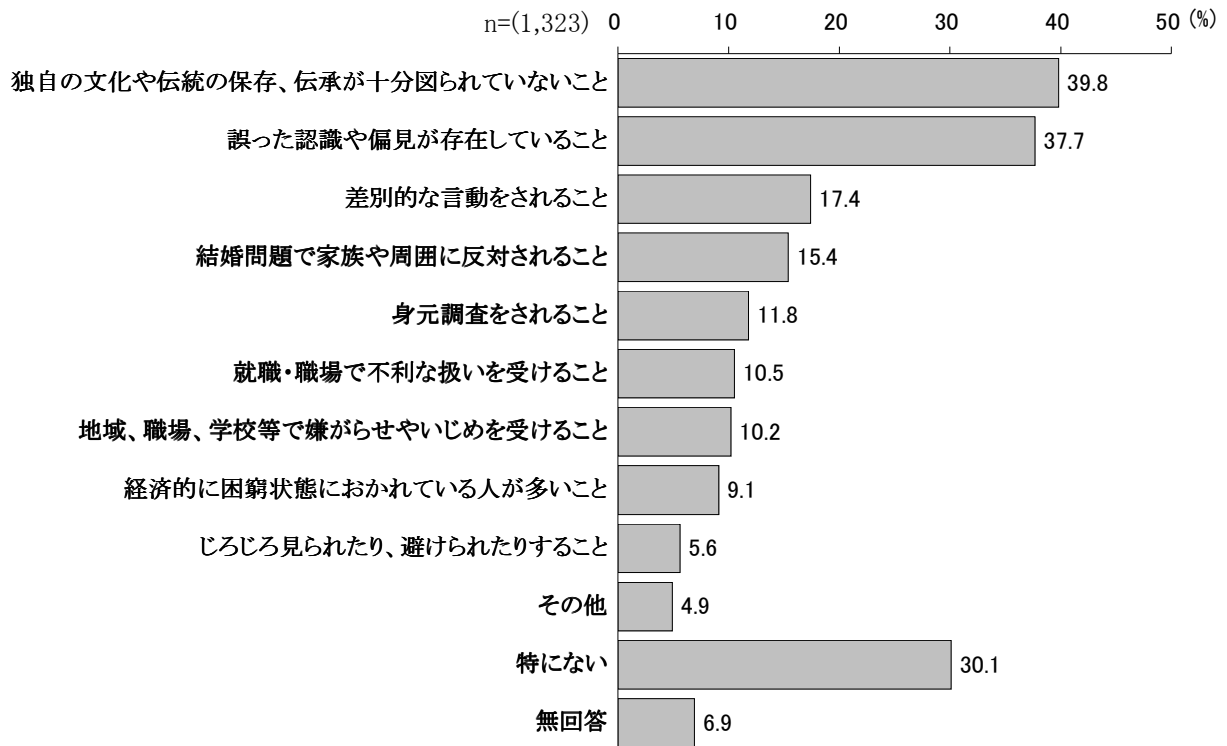
Q34 あなたは、アイヌの人々<注⑤>に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(該当するものすべてに「○」)

<注⑤>アイヌの人々

古くから本州東北部、北海道、千島列島、樺太など日本列島北辺を生活圏とし、先住している民族です。狩猟、漁労、採集等で自然との共生を大切にし、独自の言語、宗教をもち、その文化を現在に受け継いでいます。「アイヌ」とは、アイヌ語で「人間」という意味です。

アイヌの人々の人権問題について尋ねたところ、「独自の文化や伝統の保存、伝承が十分図られていないこと」が39.8%で最も高く、次いで「誤った認識や偏見が存在していること」が37.7%、「差別的な言動をされること」が17.4%などとなっている。

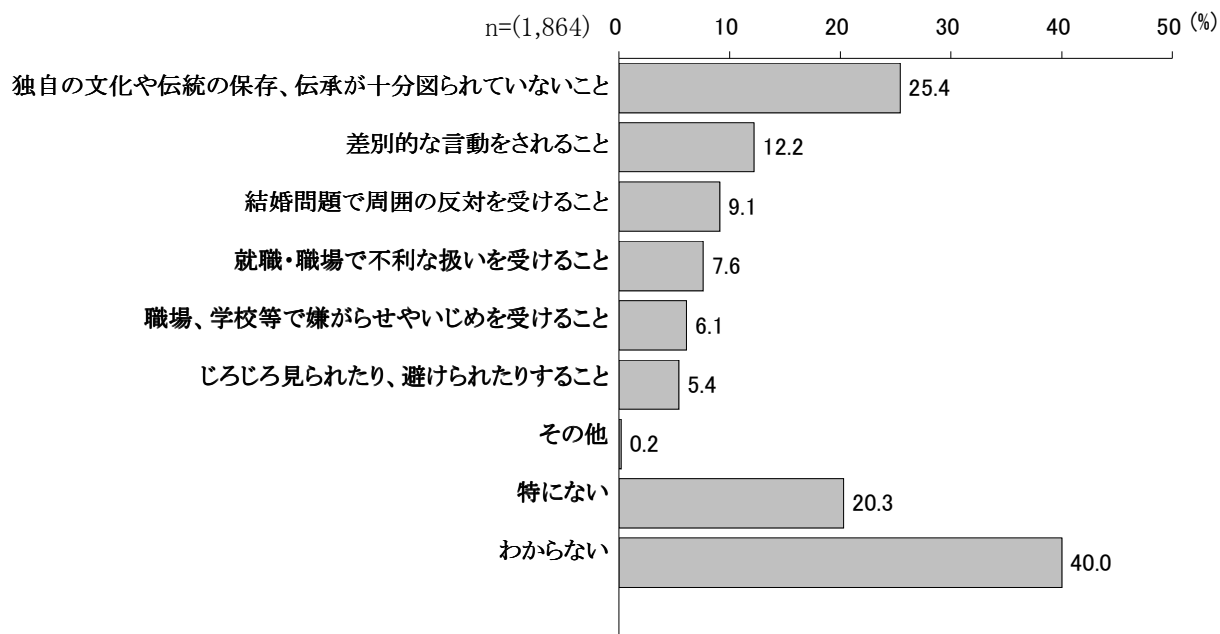
一方、「特にない」は、30.1%となっている。



参考 内閣府 アイヌの人々に関する人権問題（複数回答）

内閣府調査におけるアイヌの人々に関する人権問題では、「独自の文化や伝統の保存、伝承が十分図られていないこと」が25.4%で最も高く、次いで「差別的な言動をされること」が12.2%、「結婚問題で周囲の反対を受けること」が9.1%などとなっている。

一方、「特にない」が20.3%、「わからない」が40.0%となっている。



第2章 調査結果の詳細

【性別・年代別】

性別では、「独自の文化や伝統の保存、伝承が十分図られていないこと」は、女性（42.0%）のほうが男性（37.2%）より4.8ポイント高くなっている。

年代別では、「経済的に困窮状態におかれている人が多いこと」は、70～79歳（15.7%）で他の年代に比べて高くなっている。

	調査数	独自の文化や伝統の保存、伝承が十分図られていないこと	誤った認識や偏見が存在していること	差別的な言動をされること	結婚問題で家族や周囲に反対されること	身元調査をされること	就職・職場で不利な扱いを受けること	地域・職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること	経済的に困窮状態におかれている人が多いこと	じろじろ見られたり、避けられたりすること	その他	特にない	無回答
全体	1,323	39.8	37.7	17.4	15.4	11.8	10.5	10.2	9.1	5.6	4.9	30.1	6.9
性別													
男性	586	37.2	36.0	16.4	13.3	11.4	8.7	8.4	10.1	4.1	4.3	32.3	6.0
女性	722	42.0	39.2	18.4	17.2	12.0	12.0	11.8	8.3	6.9	5.5	28.3	7.5
年齢別													
19歳以下	16	50.0	37.5	18.8	-	12.5	-	6.3	12.5	12.5	-	18.8	-
20～29歳	71	45.1	25.4	22.5	12.7	14.1	14.1	12.7	7.0	7.0	7.0	33.8	1.4
30～39歳	165	40.0	30.9	14.5	10.9	6.1	6.7	7.9	4.2	3.0	1.8	40.0	3.0
40～49歳	235	37.4	34.9	17.0	16.6	11.9	10.6	11.1	5.5	3.4	5.1	34.9	2.6
50～59歳	231	43.7	40.3	19.9	14.3	8.7	8.7	11.7	8.2	5.2	6.5	27.3	3.9
60～69歳	284	40.5	42.3	19.0	15.5	13.0	11.3	8.5	9.5	7.0	4.9	27.5	8.1
70～79歳	217	38.7	41.0	14.7	18.4	15.7	11.5	10.1	15.7	5.5	6.5	24.9	12.4
80歳以上	94	29.8	39.4	16.0	20.2	13.8	16.0	12.8	12.8	10.6	2.1	27.7	19.1